



# 稲作情報第6号

(生育状況、カメムシ対策、高温対策)

JA夢みなみ(すかがわ岩瀬地区・あぶくま石川地区)、県中農林事務所須賀川農業普及所

令和7年7月23日～

令和7年9月2日

## 1 気象庁発表 東北地方発表 1ヶ月予報 (7月19日～8月18日までの見通し)

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温が高い確率が80%と高い見込み、降水量は平年並か少ない見込み、日照時間は多い見込みとなっています。

※熱中症に注意！のどが渇いていなくても、定期的に水分・塩分をとりましょう。気温が高い時間帯は作業を行わないようにしましょう。体調不良を感じる前に日陰など涼しい場所に避難して体を冷やし、水分と塩分を摂りましょう。



## 2 生育状況

草丈は平年より長く、葉色は平年よりも淡い傾向です(表1)。近年は高温の影響で、いずれの品種も生育が平年よりも数日程度早まっている傾向です(表2)。

表1 生育調査結果(7月15日調査)

品種・場所	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)	品種・場所	年次	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)
移植日					移植日				
コシヒカリ	本年	<b>79.6</b>	<b>504</b>	<b>30.0</b>	コシヒカリ	本年	<b>88.6</b>	<b>495</b>	<b>30.6</b>
須賀川市	前年	79.0	594	34.5	石川町	前年	81.7	438	32.3
長沼	平年	77.0	570	34.5	5/2	平年	74.9	474	33.0
5/3	平年差・比	<b>103</b>	<b>88</b>	<b>-4.5</b>		平年差・比	<b>118</b>	<b>104</b>	<b>-2.4</b>
コシヒカリ	本年	<b>85.5</b>	<b>620</b>	<b>31.7</b>	チヨニシキ	本年	<b>69.8</b>	<b>373</b>	<b>33.1</b>
須賀川市	前年	81.3	484	42.8	平田村	前年	73.9	558	42.3
岩瀬	平年	77.5	521	37.9	5/15	平年	66.3	438	40.7
5/3	平年差・比	<b>110</b>	<b>119</b>	<b>-6.2</b>		平年差・比	<b>105</b>	<b>85</b>	<b>-7.6</b>

※平年値は前5カ年の平均値

表2 生育ステージの目安(農業総合センター(郡山市), 5/15 移植)

品種	年次	幼穂形成始期	出穂期
コシヒカリ	本年	<b>7/16</b>	<b>未達</b>
	前年	7/14	8/05
	平年	7/19	8/09
ひとめぼれ	本年	<b>7/08</b>	<b>未達</b>
	前年	7/08	7/30
	平年	7/12	8/02
天のつぶ	本年	<b>7/11</b>	<b>未達</b>
	前年	7/10	8/01
	平年	7/12	8/04

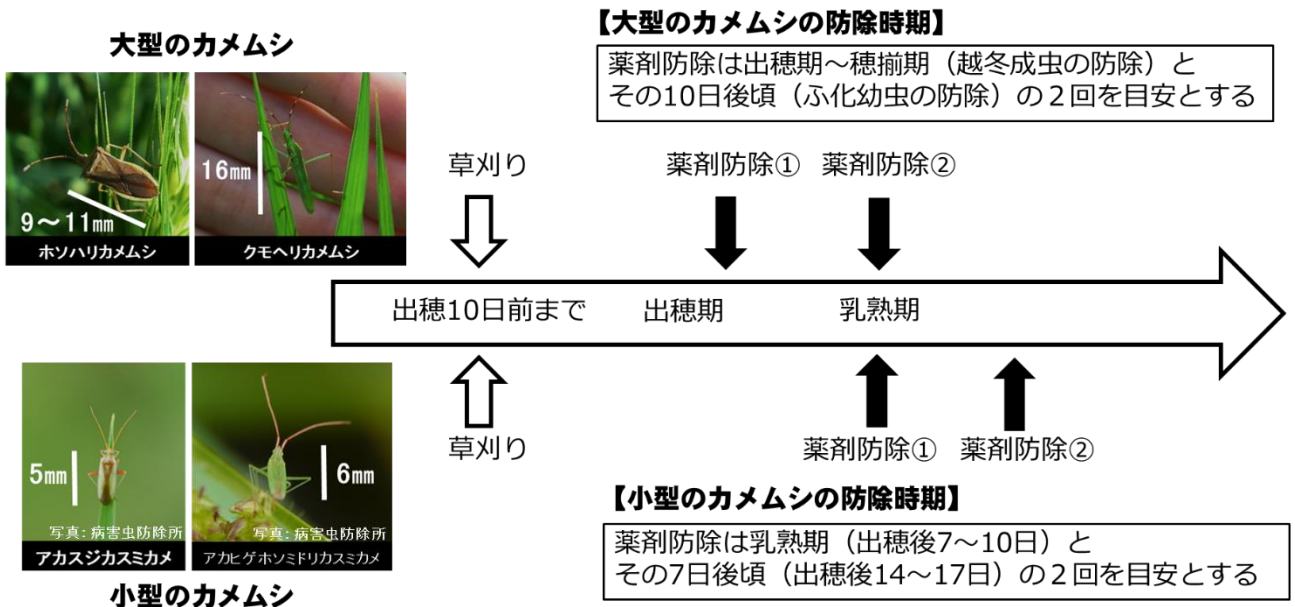
・5月の連休頃に田植えをした場合、これよりも出穂が早まります！  
 ・7月中に出穂するほ場もある予想です。  
 ・**斑点米カメムシ類の対策等**  
**早めの準備を行いましょ！**

**刈払機使用時の安全対策を！** 刈払機使用時に、折れた刃や石が目へ飛び込み失明する等の事故が多数発生しています。防護メガネを必ず使用するとともに、安全カバーを決められた位置に装着するようにしてください。

### 3 主な病害虫の発生予察と対策 ～斑点米カメムシ類注意報発令中～

病害虫名	発生時期	発生量	防除上注意すべき事項
いもち病 (穂いもち)	平年並	平年並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上位葉に病斑がある場合、薬剤防除（穂への感染を防ぐため）</li> <li>・ 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ末期と穂揃期に施用</li> <li>・ 薬剤耐性菌の発達を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避ける</li> </ul>
紋枯病	平年並	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窒素肥料の多用を避ける</li> <li>・ 水面施用剤は出穂前、散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用</li> <li>・ 気温が高いと上位葉鞘への伸展が進む。特に前年に発生が多かったほ場では注意！</li> </ul>
斑点米 カメムシ類	やや早	多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畦畔や水田周辺のイネ科雑草の穂は斑点米カメムシ類の増殖源になるため、草刈りを励行し、イネの出穂 10 日前までに終了させる。出穂 10 日前以降の草刈りは水田内にカメムシを追い込むことになるため控える。薬剤防除は 4 参照。</li> </ul>

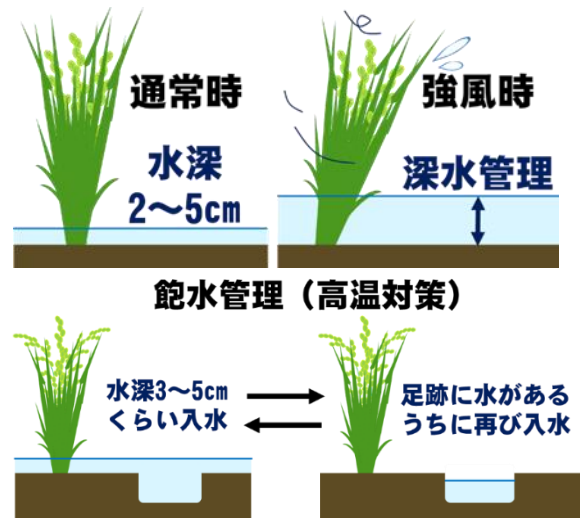
### 4 斑点米カメムシ類対策の薬剤防除の注意点 ～カメムシの種類で防除時期が違います～



### 5 出穂前後の水管理 ～飽水管理の徹底で高温対策を～

穂ばらみ期から出穂期は、稲が特に水を必要とする時期です。水分が不足すると、不稔籾が増えるため、水深 2～5cm 程度の湛水管理を基本としてください。

- (1) **強風時の対策** 出穂直後にフェーン現象にあうと、褐変籾や不稔籾、白穂が出やすいため、深水管理を行いましょ。強風時に稲を揺れにくくし、倒伏やくず米の増加を抑える効果があります。
- (2) **高温対策** 出穂後が高温の場合、乳白粒や腹白粒等が増える恐れがあります。飽水管理（田面にひたひたの水がある状態を保つ管理）をして、地温の上昇を抑えましょ。



県中農林事務所須賀川農業普及所    ご不明の点は、JA夢みなみ、須賀川農業普及所にお問い合わせください  
 電話(0248)-75-2180    次回の発行予定日は令和 7 年 9 月 3 日(水)です。

- ◆ 農薬危害防止運動実施中(6月10日から9月10日)です。
- ◆ 農薬を使用する前に、ラベルの確認と周辺への配慮及び飛散防止対策の徹底をお願いします。